

■一般口演—研究発表

演題グループ	発表日時	発表場所	登録番号	演題番号	筆頭著者 姓	筆頭著者 名	1.筆頭著者の所属機関名	演題名
就労支援	12月15日 13:40～ 15:10	22号館 617	10008	研究口頭発表1-1	田中	庸介	ウェルビー株式会社 就労移行支援部	就労移行支援事業所におけるセルフモニタリングシートの活用～自己効力を高める関わりを通して就労準備性が向上した事例～
			10044	研究口頭発表1-2	大石	甲	障害者職業総合センター 研究部門	企業と障害当事者の考える障害者雇用の質の視点―「障害者雇用の質的改善に向けた基礎的研究」の結果から
			10083	研究口頭発表1-3	徳丸	史郎	法政大学大学院 政策創造研究科	企業で働いている精神障害者の信頼感とワーク・エンゲイジメントの関係―多母集団同時分析による検討―
			10085	研究口頭発表1-4	池野	雅一	長岡ヘルスケアセンター(長岡病院)	精神科病院職員の精神障がい者との勤務経験が障がい者雇用者のパフォーマンス評価に与える影響について
			10091	研究口頭発表1-5	岡部	絢	株式会社LITALICO	自殺対応場面における支援者に必要なリソースの検討―就労移行支援事業所スタッフに対するケアの視点から―
多職種・地域連携	12月15日 15:20～ 16:50	22号館 615	10009	研究口頭発表2-1	徳山	大英	NPO法人全国精神障害者ネットワーク協議会 調査研究事業部	分業化されていないOTとPSW コメディカルの専門性をつかえていない精神科医療
			10012	研究口頭発表2-2	原田	小夜	梅花女子大学看護こ見学部看護学科	介護支援専門員が支援している高齢精神障害者の支援事例の特徴と精神科専門職連携
			10017	研究口頭発表2-3	波名城	翔	長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 社会福祉学科	大規模離島における精神障害者支援に関する研究
			10054	研究口頭発表2-4	吉田	光爾	東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科	市区町村による精神保健医療福祉システム整備進捗のWebデータベースの開発～地域精神保健福祉資源データベース ReMHRAD～
			10066	研究口頭発表2-5	山田	志乃ぶ	山形さくら町病院	地域で暮らす精神障害を有する人と周囲の人々との関係性に関する文献レビュー
リカバリー・啓発	12月15日 15:20～ 16:50	22号館 601	10033	研究口頭発表3-1	宮本	有紀	東京大学大学院 医学系研究科 精神看護学分野	精神障がい者の社会性回復に農が果たす効果と意義について
			10043	研究口頭発表3-2	松長	麻美	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域・司法精神医療研究部	当事者を含めた多職種によるリカバリー・カレッジ運用のための指針(ガイド)の開発
			10061	研究口頭発表3-3	小川	真紀子	あしたば訪問看護ステーション	精神科訪問看護におけるリカバリー志向の服薬支援の方法
			10069	研究口頭発表3-4	松井	陽子	朝日大学 保健医療学部 看護学科	精神障害者のリカバリーに関する尺度開発についての文献レビュー―2008年からの10年間の動向と先行研究の比較―
			10132	研究口頭発表3-5	種田	綾乃	神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 社会福祉学科	統合失調症をもつ当事者が「主体的」に生きるうえでの要素とは―フォーカスグループ・インタビュー調査から―
プログラム評価	12月16日 9:00～ 10:30	22号館 206	10050	研究口頭発表4-1	栄	セツコ	桃山学院大学 社会学部	精神障害当事者の語りを生かした福祉教育活動に関するプログラム評価～福祉教育活動の推進者にもたらすアウトカムとは～
			10062	研究口頭発表4-2	佐藤	純	京都ノートルダム女子大学 現代人間学部	英国メリデン版訪問家族支援の効果に関する基礎的研究―本人・家族双方からみた支援による変化と効果
			10077	研究口頭発表4-3	大山	早紀子	川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科	LASMIの得点の変化から見る精神科デイケアおよび訪問支援統合化プログラム(暫定版)の効果評価
			10095	研究口頭発表4-4	笹井	瞳	WRAP研究会いわて	IMRIに関する書籍を通じて当事者が重要と感じた表現と実践への導入可能性
			10128	研究口頭発表4-5	下園	美保子	愛知県立大学 看護学部	精神科デイケアおよび訪問支援統合化プログラム(暫定版)の試行時における、スタッフが実感する効果評価
身体・心理・社会的転帰	12月16日 10:45～ 12:15	22号館 206	10010	研究口頭発表5-1	山梨	宗治	NPO法人全国精神障害者ネットワーク協議会	親と子の共依存から抜け出すためのヒント 親からの共依存関係があると子供は発病しやすい
			10014	研究口頭発表5-2	西崎	美和	医療法人社団 東峰会 関西青少年サナトリウム OT室	ふまねっと運動の転倒予防効果に関する予備的研究
			10037	研究口頭発表5-3	中村	恭子	順天堂大学 スポーツ健康科学部	精神科リハビリテーションにおける体力・運動能力回復のための運動プログラムの検討
			10074	研究口頭発表5-4	佐藤	美央	国立国際医療研究センター 国府台病院	精神科救急・急性期治療病棟における統合失調症者に対する集団心理教育実践への課題
			10106	研究口頭発表5-5	村尾	卓嶺	赤穂仁泉病院	認知矯正療法(NEAR)参加者における効果、社会的転帰、ドロップアウト防止について
専門分野・地域実践	12月16日 13:00～ 14:30	22号館 206	10019	研究口頭発表6-1	大隅	薫	早稲田大学 人間科学研究科	ソーシャルアクションの過程をたどる文献研究―谷中輝雄はどのように「こいの家」を実現化したか―
			10021	研究口頭発表6-2	大橋	冴理	兵庫県立大学大学院 看護学研究科 博士前期課程 精神看護学専攻 高度実践看護コース	児童・思春期精神科病棟に入院した被虐待児への看護介入における課題
			10059	研究口頭発表6-3	野津	春枝	山形県立保健医療大学 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士前期課程	入院中の精神疾患を有する人における自記式不安尺度STAIの得点傾向
			10086	研究口頭発表6-4	宇野	宗道	向島保健センター	日本におけるクラブハウスマodelの実践課題に関する研究
			10110	研究口頭発表6-5	早坂	香織	社会医療法人智徳会 未来の風せいわ病院 医療福祉相談室	当事者らから話しやすい精神保健福祉士が持つ雰囲気とは?―服装や表情という視点からの考察―

■一般口演—実践報告①

演題グループ	発表日時	発表場所	登録番号	演題番号	筆頭著者姓	筆頭著者名	1.筆頭著者の所属機関名	演題名
地域・連携・ネットワーク	12月15日 13:40～ 15:10	22号館 615	10032	実践口頭発表1-1	五十嵐	佐京	株式会社MC Median べてぶくろ グループホームしずく	東京池袋における「べてぶくろ」の取り組み—「べてるの家」と路上生活者支援「ハウジングファースト東京プロジェクト」の融合—
			10105	実践口頭発表1-2	坂本	将吏	TeamきりりOKINAWA	想いつたらおおきなWaのなか”やってみよう”きりりの集いin沖縄2018
			10117	実践口頭発表1-3	鳥海	春佳	特定非営利活動法人ヒールライトねっと アクティビティサポートセンターゆい	自立訓練(生活訓練)における社会資源の創出と有効性～利用者と地域住民との協働～
			10125	実践口頭発表1-4	武藤	康司	社会福祉法人 おあし福祉会 ピアワーク・オアシス	利用者が東日本大震災・熊本地震の被災者支援に取り組んで＝「被災地の子どもたちに木のおもちゃを贈ろう！」＝
			10119	実践口頭発表1-5	須藤	武志	おあし福祉会 共同生活援助 第2クローバーハウス	利用者が望む地域での自立生活の実現のための支援とは＝医療との連携の在り方を巡って＝
			10094	実践口頭発表1-6	中原	さとみ	リカバリーキャラバン隊	国際IPS学習コミュニティの年次ミーティングへの参加報告
セルフヘルプ・ピアサポート	12月15日 13:40～ 15:10	22号館 601	10002	実践口頭発表2-1	有川	雅俊	医療法人三精会 汐入メンタルクリニック	Richmond Fellowship of Hong Kong's Art Exhibition "Art Without Boundary 2016 Journey of HOPE"での上映を通して
			10007	実践口頭発表2-2	塚本	さやか	特定非営利活動法人 東京ソテリア 東京ソテリアエンプロイメント	イタリアボローニャで考えるバザーリア法40周年～イタリア精神保健の現在と日本のこれから～
			10018	実践口頭発表2-3	三好	哲也	三重県立こころの医療センター	精神科病院における当事者活動(当事者研究・WRAP)の運営について
			10065	実践口頭発表2-4	節木	哲也	医療法人 周行会 精神障害者地域生活支援センター風	バレーボールを通しての仲間づくりについて ～それぞれの生活や希望の変化～
			10107	実践口頭発表2-5	河井	信典	滋賀県立精神医療センター デイケア	デイケアメンバーによるデイケアの治療効果研究について～当事者が考えるデイケアの効果 1～
			10108	実践口頭発表2-6	山口	有流	滋賀県立精神医療センター デイケア	デイケア治療効果の研究を行っての自分自身の変化について～当事者が考えるデイケアの効果 2～
症状・認知および社会復帰等	12月15日 15:20～ 16:50	22号館 617	10011	実践口頭発表9-1	渡部	誠一	医療法人 慈全会 那須高原病院 作業療法	双極性障害事例におけるQOLの縦断的評価—回復過程と躁病エピソードの予測示唆—
			10058	実践口頭発表9-2	中谷	琢	社会医療法人 平和会 吉田病院	生活臨床のケースレポート: 能動型の定義と支援原則の見直しの試み
			10089	実践口頭発表9-3	森	泰祐	医療法人美喜和会 オレンジホスピタル	引換券を用いることで予測障害を減少させ、活動範囲の拡大に至った慢性期統合失調症の患者について—事例報告—
			10115	実践口頭発表9-4	宮崎	理慧	医療法人尚生会 (創)シー・エー・シー	社会参加を模索していた場面緘黙症のあるA氏の就労支援から得た学び
			10131	実践口頭発表9-5	丸山	貴幸	社会福祉法人 秀峰会 訪問看護リハビリステーションさくら苑	排ガスと排便不良で入退院を繰り返す特定不能の精神疾患患者のリハビリ
			10135	実践口頭発表9-6	大畠	久典	兵庫県立ひょうごこころの医療センター	精神症状に関連した関わりにくさを持って入院した統合失調症患者に対するリハビリテーションプログラムの実践
就労支援	12月16日 9:00～ 10:30	22号館 508	10015	実践口頭発表3-1	工藤	達	社会福祉法人はーとふる 就労移行支援事業所 就労サポートのた	メタ認知トレーニング(MCT)と認知機能リハビリテーション(JCORES)を一体的に実践した就労支援の取り組み
			10031	実践口頭発表3-2	土居	江利	多機能型事業所 Zero Point	就労支援における作業療法士の関わり-個人因子と環境因子に対するアプローチにより改善した生活のしづらさ-
			10064	実践口頭発表3-3	三上	綾佳	特定非営利活動法人Switch	IPS理念における就労と生活支援を目指す～予防的なセルフケアとライフワークバランス～
			10079	実践口頭発表3-4	石井	和子	ジョッゴ株式会社	自分の力を発揮してより豊かな生活を目指す障害者のための職場環境作り～障害者が働き方を選ぶ時代へ～
			10104	実践口頭発表3-5	船橋	郁美	社会福祉法人 明清会 就労準備支援事業 アイリス	ひきこもりの方の就労準備支援事業の取り組みを通して ～想いに寄り添い続ける関係の大切さ～
さまざまな実践	12月16日 9:00～ 10:30	22号館 617	10016	実践口頭発表4-1	川中子	有	医療法人社団榎会 新大塚榎本クリニック	高次脳機能障害とアルコール
			10027	実践口頭発表4-2	山口	雅世	福岡大学大学院 人文科学研究科 教育臨床心理専攻 博士課程前期	精神障害の親と暮らす子どもの地域支援「福岡子ども応援プロジェクト」始動から1年の活動報告
			10057	実践口頭発表4-3	矢花	孝文	医療法人財団 東京勤労者医療会 みさと協立病院	当事者参加の多職種合同カンファレンスにリフレクティングを用いる——他院・透析室との連携——
			10072	実践口頭発表4-4	齊藤	由美	川崎医療福祉大学 医療福祉学部 臨床心理学科	学生の考える「支援」とは？～施設実習での学びを通して考える～
			10121	実践口頭発表4-5	大原	創太	医療法人丹比荘 丹比荘病院	精神障害者における“車いす”の存在について考える
			10004	実践口頭発表4-6	萩原	薫季	医療法人生々堂厚生会 森病院	仲間と共に行動・経験し成長する「森の風 編集部」

■一般口演—実践報告②

演題グループ	発表日時	発表場所	登録番号	演題番号	筆頭著者 姓	筆頭著者 名	1.筆頭著者の所属機関名	演題名
リカバリ	12月16日 10:45～ 12:15	22号館 508	10030	実践口頭発表5-1	今井	浩了	特定医療法人 万成病院	慢性期統合失調症に対するIMR(Illness Management and Recovery)の実践～思いを表現できた一症例を通して～
			10040	実践口頭発表5-2	朝倉	起己	共和病院 作業療法課	リカバリーの実現を目指した間接的なサポートチームの一例～ひずみのない支援を目指して～
			10047	実践口頭発表5-3	真嶋	信二	認定NPO法人 リカバリーサポートセンター ACTIPS	リカバリーカレッジたちかわ「講座:リカバリー入門」実践報告
			10060	実践口頭発表5-4	小口	祐典	相模原市 精神保健福祉センター	「松本ハウスのエンパワメント講演会」から「地域のバリアフリーフェスティバル」へ～当事者と支援者との相方向エンパワメント～
			10034	実践口頭発表5-5	矢部	滋也	一般社団法人 北海道ピアサポート協会 多機能型事業所PEER+design	ピアサポートを活用した障害福祉サービス運営における実践報告—精神疾患当事者らが運営する多機能型事業所ピアデザイン—
			10070	実践口頭発表5-6	橋本	達志	こころカ・プロダクション	精神障害者メディア事業所におけるこれまでの取り組みとこれからの展望～就労継続支援B型事業所での挑戦～
地域での取り組み	12月16日 10:45～ 12:15	22号館 615	10039	実践口頭発表6-1	鴨藤	菜奈子	医療法人社団互啓会 びあクリニック	メリデン版訪問家族支援を導入することによって得られた効果と工夫
			10081	実践口頭発表6-2	大場	綾希子	宮城県立精神医療センター 訪問看護ステーションゆとり	訪問看護利用者の地域定着を目指して—利用者の退院後3か月以内の再入院の経過から見えたこと—
			10098	実践口頭発表6-3	小俣	裕子	医療法人社団 リカバリー こころのホームクリニック世田谷 ナースステーション	訪問スタッフ自身が感じる精神科訪問看護における多職種チーム支援の良さの要因
			10102	実践口頭発表6-4	吉野	賀寿美	医療法人社団 五稜会病院 看護部	メリデン版訪問家族支援がもたらす家族関係改善の効果～Aさん家族の場合～
			10023	実践口頭発表6-5	本山	智敬	福岡大学 人文学部	オープンダイアローグの学びによる組織活性化の試み(1):学習プログラムの概要と学びの視点
			10111	実践口頭発表6-6	池田	耕治	訪問看護ステーション アトラス福岡	オープンダイアローグの学びによる組織活性化の試み(2):チームアプローチ評価尺度による効果の検討
退院促進・地域定着	12月16日 13:00～ 14:30	22号館 508	10038	実践口頭発表7-1	市木	康史	医療法人 周行会 湖南病院	長期入院患者の退院支援～退院の原動力となった2つの要素～
			10051	実践口頭発表7-2	高橋	朋之	医療法人 周行会 湖南病院	長期入院患者の退院支援—グループホームに入居した患者への支援から学んだこと—
			10068	実践口頭発表7-3	川井	邦浩	医療法人 杏和会 阪南病院 包括支援室	罪を犯した精神障がい者の地域生活支援に関する一考察～精神科在宅患者支援管理料の算定を通して～
			10078	実践口頭発表7-4	秋田	達也	特定非営利活動法人ヒールライトねっと 相談支援センターくらふと	相談支援事業所における地域移行支援専従職員配置の効果について
			10099	実践口頭発表7-5	高野	邦恵	特定非営利活動法人ヒールライトねっと 介護サービス包括型グループホーム 遊牧舎	通過型グループホームで生活支援員が世話人との連携において果たす役割
			10101	実践口頭発表7-6	渡辺	千とせ	社会医療法人智徳会 未来の風せいわ病院	金銭管理支援を行った一事例
集団の心理社会的アプローチ	12月16日 13:00～ 14:30	22号館 615	10013	実践口頭発表8-1	植原	亮介	社会医療法人 平和会 吉田病院 精神科	当院における依存症集団療法SMARPPの実施状況と課題
			10024	実践口頭発表8-2	緒方	暁子	NPO法人NECST ユースキャリアセンター フラッグ	若年発達障害者の就労に向けた小グループ認知行動療法の実践について
			10026	実践口頭発表8-3	福岡	薫	社会福祉法人みつわ会	当事者参加によるPEAPを用いた環境改善プログラム
			10042	実践口頭発表8-4	五十嵐	美紀	昭和大学発達障害医療研究所	診療報酬化した発達障害(ASD)専門プログラムの取り組みについて
			10087	実践口頭発表8-5	小竹	玲子	(特定) 医療法人社団 林下病院 リハビリテーション部	メタ認知トレーニングでの学びを生活の中で実践し対人トラブルの回避につながった統合失調症の事例
			10129	実践口頭発表8-6	古屋	喜代子	医療法人 誠心会 神奈川病院	集団と個別認知行動療法「メタボ脱出大作戦」Part2—健康管理リカバリー支援—

■ポスター—研究発表

演題グループ	発表日時	発表場所	登録番号	演題番号	筆頭著者 姓	筆頭著者 名	筆頭著者の所属機関名	演題名
就労支援	12月15日 12:30～ 13:30	井深 ホール 3階	10052	研究P-1-1	清野	絵	国立障害者リハビリテーションセンター 研究所	高等教育機関における精神障害のある学生への就労支援:文献レビュー および事例紹介
			10067	研究P-1-2	前原	和明	障害者職業総合センター	就業中の精神障害者の語りに見る就労支援の意味について
			10126	研究P-1-3	恒吉	麻実子	株式会社LITALICO LITALICOワークス事業部 九州グループ	就労移行支援事業所のスタッフの困難場面における対応チェックリストの 作成
			10056	研究P-1-4	岡部	絢	株式会社LITALICO	自殺対応場面における支援者の陰性感情に与える影響に関する一考察— 就労移行支援事業所スタッフに対するケアの視点から—
多様なアプローチ	12月15日 12:30～ 13:30	井深 ホール 3階	10092	研究P-2-1	崎本	麻衣	リンクよこはま訪問看護ステーション	地域で生活する精神障害者のリハビリ、作業機能障害、主観的な生活の 困難さの関連
			10097	研究P-2-2	大川	浩子	北海道文教大学 人間科学部 作業療法学科	対話型アプローチの研修がメンタルヘルスに与える影響 —インテンシ onal・ピアサポートを用いた研修から—
			10113	研究P-2-3	相澤	和美	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 精神看護学領域	「未来語りのダイアログ」の対話技法を取り入れたセッションが精神保健 福祉関係者の懸念に及ぼす影響
			10137	研究P-2-4	小林(清重)	知子	日本福祉教育専門学校	WRAP(元気回復行動プラン)の効果のメカニズムの探査
調査研究①	12月15日 12:30～ 13:30	井深 ホール 3階	10029	研究P-3-1	中	美幾	医療法人光愛会 高槻地域生活支援センターオアシス	リハビリプログラム(IPPO)の体験から支援者自身のリハビリを考える～ グループインタビューから見えたこと～
			10088	研究P-3-2	和泉	亮	株式会社LITALICO LITALICOワークス事業部 ヒューマンリソースグループ	就労移行支援事業所における障害者雇用の促進因子及び阻害因子に関 する考察～障害者雇用スタッフインタビュー調査から～
			10093	研究P-3-3	木村	志保	関西福祉科学大学 心理科学部	滞日外国人の生活観と生活問題の検討(BR)～滞日外国人当事者を対象 としたフォーカスグループインタビュー結果から～
			10114	研究P-3-4	古賀	誠	昭和大学保健医療学部	フットサルプログラムを継続参加するメンバーから得られた継続理由と効果 に関する研究
調査研究②	12月15日 12:30～ 13:30	井深 ホール 3階	10045	研究P-4-1	杉本	圭以子	大分県立看護科学大学 精神看護学研究室	精神科デイケアにおけるIMRによるリハビリゴールの変化とリハビリ ゴールを達成するための行動の変化
			10055	研究P-4-2	橋本	菊次郎	北翔大学 教育文化学部 心理カウンセリング学科	北海道帯広・十勝地区における精神保健ソーシャルワークの展開過程に みる地域リハビリテーションのありよう
			10076	研究P-4-3	和田	彩花	早稲田大学 人間科学研究科 健康福祉領域	文化・社会・経済的視点から見た自殺に関する一考察
			10130	研究P-4-4	小峰	洋子	昭和大学附属烏山病院	発達障害診療専門拠点機関の機能の整備と安定的な運営ガイドラインの 作成のための研究—拠点医療機関に望まれる機能について—

■ポスター—実践報告

演題グループ	発表日時	発表場所	登録番号	演題番号	筆頭著者 姓	筆頭著者 名	1.筆頭著者の所属機関名	演題名
個別の心理社会的アプローチ	12月16日	井深 ホール 3階	10084	実践P-1-1	奥寺	優子	北リアス病院 デイケア	デイケアを利用するひきこもり経験者の実態 —過疎地における精神科病院での調査から—
個別の心理社会的アプローチ	11:30~ 13:00		10100	実践P-1-2	坪内	友美	社会福祉法人らっく	精神科病院での長期入院から地域生活を始めた時に見えてきた生活課題 地域移行支援事業により退院に至った2事例の紹介
個別の心理社会的アプローチ			10122	実践P-1-3	吉川	陽子	株式会社LITALICO LITALICOワークス枚方	気分変調症30代女性に対する否定的思考の整理と対処行動選定に関する一考察～紙一枚で行う面談の構造化による問題解決について～
個別の心理社会的アプローチ			10124	実践P-1-4	高江	穂乃瑠	社会医療法人智徳会 未来の風せいわ病院	デイケア・デイナイトケア利用における地域生活での変化
個別の心理社会的アプローチ			10134	実践P-1-5	澤田	さやか	医療法人 八事の森 杉浦医院	路上生活から市営住宅の生活に至った知的障害のある双子の兄弟へのチームアプローチによる支援
セルフヘルプ・ピアサポート	12月16日	井深 ホール 3階	10071	実践P-2-1	坂本	智代枝	大正大学 人間学部 社会福祉学科	ニューヨーク市における当事者運営サービスの視察報告 —Peer Advocacy と Bridger Servicesの取り組み—
セルフヘルプ・ピアサポート	11:30~ 13:00		10103	実践P-2-2	彼谷	哲志	特定非営利活動法人あすなろ 三田市精神障害者支援センター	精神障害当事者の相談員は対人援助において自ら精神疾患や症状についてどのように利用者伝えていくか
セルフヘルプ・ピアサポート			10138	実践P-2-3	佐藤	由美子	日本社会事業大学大学院 福祉マネジメント研究科	精神科医療機関で働くピアスタッフ・ピアサポーターの語りの場づくり—経験語りあう中から生まれたもの—
セルフヘルプ・ピアサポート			10140	実践P-2-4	藤田	英親	SHARE普及推進委員会	訪問看護におけるSHAREの試行的実施
セルフヘルプ・ピアサポート			10116	実践P-2-5	平松	さやか	相模原市 精神保健福祉センター	社会参加促進事業での当事者活動におけるリカバリーへの効果について
多様な実践活動①	12月16日	井深 ホール 3階	10022	実践P-3-1	浜内	彩乃	大阪バイオメディカル専門学校 医療福祉心理学科	学校における多様な交流が双方向にエンパワメントを引き起こしていくプロセス
多様な実践活動①	11:30~ 13:00		10049	実践P-3-2	田中	洋平	社会福祉法人 豊心会 地域生活支援センターこかげ	東京都豊島区における地域移行支援の取り組み～アンケート調査を通して見えてきた課題～
多様な実践活動①			10136	実践P-3-3	岩見	祐亮	一般社団法人 福島県精神保健福祉協会 ふくしま心のケアセンター	ふくしま心のケアセンターの電話相談—被災者相談ダイヤル「ふくこライン」の活動報告—
多様な実践活動①			10141	実践P-3-4	二川	康大	共同作業所 オーク	はあとの木～障害者とみんなをつなぐプロジェクト～
多様な実践活動①			10142	実践P-3-5	小池	杏奈	公益財団法人 横浜市総合保健医療財団 神奈川区生活支援センター	普及啓発活動の実践と課題
多様な実践活動②	12月16日	井深 ホール 3階	10143	実践P-4-1	杉本	豊和	白梅学園大学 子ども学部 家族・地域支援学科	ベルギーの精神医療改革におけるプライマリケアとGeneral Practiceの役割
多様な実践活動②	11:30~ 13:00		10073	実践P-4-2	御代	あかね	東京大学 医学部 附属病院 リハビリテーション部	デイケアの家族心理教室参加を通じて本人および家族の障害受容意識が変化した一例
多様な実践活動②			10075	実践P-4-3	株元	麻美	東京大学 医学部 附属病院 リハビリテーション部	ピアスタッフの講演を含めた家族心理教室の実践と効果
多様な実践活動②			10080	実践P-4-4	海老原	慶	赤穂仁泉病院	「標準版ツールキットを使用した家族心理教育についての検討」 当院第8クールの結果と考察
多様な実践活動②			10127	実践P-4-5	小西	美奈	特定医療法人 恵風会 高岡病院	慢性期病棟でのWRAP導入によるNsへの効果
多様な実践活動②			10146	実践P-4-6	金久保	正光	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 国府台病院	「なないろの会～明日への一歩～」の立ち上げと今後の展望
就労支援	12月16日	井深 ホール 3階	10000	実践P-5-1	國吉	利生	医療法人 陽和会 ワークライフサポート南山	認知機能リハビリテーションと心理カウンセリングを併用し、職場定着に至った一事例
就労支援	11:30~ 13:00		10020	実践P-5-2	小野	彩香	認定特定非営利活動法人Switch	対話型セルフケア支援による在職者への効果について ～在職者コミュニティ「はたサポ」の取り組み～
就労支援			10025	実践P-5-3	松田	暁子	社会福祉法人結の会 オフィス クローバー	職員の意識改革がもたらした、利用者の主体性
就労支援			10035	実践P-5-4	齊藤	健	社会福祉法人豊心会	ふれあいファクトリーの挑戦—障害のある人もない人もともに働く—
就労支援			10112	実践P-5-5	青木	龍也	社会福祉法人 JHC板橋会 就労継続支援B型事業所 JHC秋桜	仕事の負担と工賃のジレンマ

■自主プログラム

発表日時	発表場所	登録番号	演題番号	筆頭著者 姓	筆頭著者 名	筆頭著者の所属機関名	演題名
12月15日 13:40～ 15:10	22号館 619	10003	自主プログラム①	遠藤	紫乃	一般社団法人 スターアドバンス、2特定非営利活動法人 ヒーライトねつと	たすきがけプロジェクト ～ピアスタッフの育成から雇用まで～
12月15日 15:20～ 16:50	22号館 619	10006	自主プログラム②	山口	創生	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域・司法精神医療研究部	見える化時代の精神科リハビリテーション:最新の実践エビデンスのレビューから考える
12月16日 9:00～ 10:30	22号館 207	10048	自主プログラム③	金	文美	社会福祉法人ふらっぶ のんびりハウス	Various Practices ～進化する精神障害当事者の実践とその開拓・戦略・挑戦～
	22号館 208	10036	自主プログラム④	黒髪	恵	福岡大学 医学部 看護学科	リハビリプログラム「IPPO」の実践～「IPPO」の可能性を広げて～
12月16日 10:45～ 12:15	22号館 207	10001	自主プログラム⑤	船越	明子	兵庫県立大学看護学部	ワールド・カフェ:当事者の『語り』から生まれる未来～メンタルヘルスの未来を語り、未来を創造しよう～
	22号館 208	10118	自主プログラム⑥	武田	裕美子	NPO法人 NECST	市コミリカバリー商店街のあゆみから考える～地域における多様な支援とネットワーク～
12月16日 13:00～ 14:30	22号館 207	10053	自主プログラム⑦	加藤	大輔	中部学院大学 人間福祉学部 人間福祉学科(日本クラブハウス連合)	クラブハウス企画 第2弾ークラブハウスモデルがよくわかる！ークラブハウスの“認証”と“評価”から“活動の質”を考えるー
	22号館 208	10096	自主プログラム⑧	内山	繁樹	関東学院大学 看護学部	「はじめよう！IMR」Illness Management and Recovery:疾病管理とリハビリー
12月16日 14:45～ 16:00	22号館 207	10109	自主プログラム⑨	大山	早紀子	川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学部	分かっちゃいるけれど、難しい～明日からできる多機関連携のあんな工夫やこんな工夫をみんなで考える
	22号館 208	10046	自主プログラム⑩	小松	容子	宮城大学	Family Work(メリデン版訪問家族支援)を体験的に学ぶ